

【大学教育推進会議】第6回 e-Learning 推進部会

令和 6年 2月 8日(木) 13:30~14:30

場所：本館中会議室

委員：学長，◎久世均，木幡智子，谷里佐，野口雅子，森田実沙，笠井恵里，清水祐美，横山隆光，○村瀬康一郎，黒見敏丈，入江さやか，中根海童，瀬戸敦子，河原俊昭，山中マーガレット，櫛彩見，林知代，齋藤陽子，佐々木恵理，加藤真由美，加治工尚子，倉坪弘一，日比野仁，橋詰恵雄，松尾大成，吉水淑雄，長浜小春，久田由莉，林真子，住川英明，熊崎康文（敬称略）

議 事：

1. プレゼン資料並びに動画作成の進捗状況について（提出 1月 31日〆切）

2. e-Learning プラットフォームの構築について（2月 29日〆切）

3. e-Learning-サイトの確認並びに検証（3月末〆切）

1. 本 Web サイトが教えないで学ぶことができるサイトになっているか？

【参考】 前述 4. 「教えないで学べる」という新たな学び

2. 本 Web サイトのみで主体的な学びにより、深い学びへ導くことができるか？
3. 何を学ぶか、学修到達目標、研究課題が適切であり、学生にわかりやすく説明されているか？
4. 将来社会で本科目で得た成果を活用することができるか？
5. 今後、類似した問題に直面した時の解決の手がかりがつかめるようになっているか？
6. 本科目で目指した学修到達目標が、自分に身についたかについて学生自身で確認できるか？

【参考】 【講義】 遠隔教育特講 第4講 学習目標とその明確化

※授業の設計の考え方において、1960年代に米国の教育工学研究者のロバート・メーガー（Robert F. Mager）は、次の3つの質問をすることで、授業の目標と評価方法を定めることの重要性について説明している。

このことが e-Learning コンテンツの構築では大切です。

- ・ Where am I going? （どこへ行くのか？）
- ・ How do I know when I get there? （たどりついたかどうかをどうやって知るのか？）
- ・ How do I get there? （どうやってそこへ行くのか？）

7. 教育リソース（写真・PDF 資料・Web サイト・他の講座の内容）との連携がされているか？
8. 多様な学生を誰一人取り残すことのない、公正に個別最適化された学びを実現できるような方策を考えているか？

※新たな教育の技術革新は、多様な子供たちを誰一人取り残すことのない公正に個別最適化された学びや創造性を育む学びにも寄与するものであり、特別な支援が必要な子供たちの可能性も大きく広げるものです。（令和元年（2019年）12月19日 文部科学大臣 萩生田光一氏の大任メッセージ）

- ※ 指導の個別化と学習の個性化

4. 来年度の e-Learning 構築科目(15 科目)について (3月28日〆切)

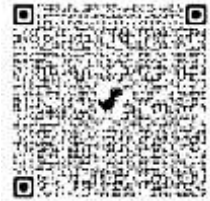
○構築科目には戦略をもって科目構成を考える必要があります。その戦略の方向性は、大学の新たな展開に結びつけることが重要です。部会で考えている新たな展開は以下の通りです。

- ①大学等連携の推進
- ②学生 社会人の教育プログラムの開発
- ③単位互換プログラム事業の展開
- ④リカレント教育 リスキリング教育の推進
- ⑤高大接続の推進
- ⑥学修成果の評価方法の開発 普及
- ⑦地域活性化の推進

5. その他

【提出】

①来年度の e-Learning 構築科目(15 科目)について (3月28日〆切)



次回 令和6年3月28日(木) 13:30~14:30 (予定)